特集

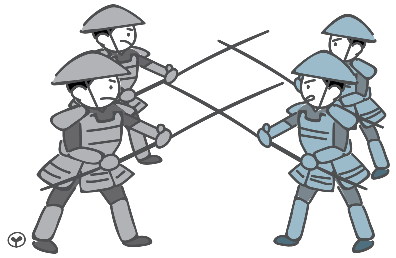
彦根のもう一つの大城郭

佐和山城跡

彦根市といえば、「彦根城跡」をイメージしがちですが、「佐和山城跡」も日本の歴史上で大きな役割を果たしている貴重な城跡の一つです。

今回の特集では、佐和山城跡の歴史や文化、楽しみ方など、さまざまな面から佐和山城跡の魅力を紹介します。

問い合わせ先　㊢教育委員会文化財課☎26-5833、FAX26-5899



日本史上では、彦根城跡と同じくらい有名です！

多くの映画や時代劇の舞台として登場する佐和山城。それほどまでに描かれるのは、**石田三成が城主であった**ことや、彼の生涯の最高峰といえる**関ケ原の合戦に関係する場所**だからだと考えられます。

合戦で石田三成が率いる西軍は敗戦。西軍を破った井伊家が佐和山城に入城し、彦根藩の礎（いしずえ）を築きました。

▶JR東海道線側（古沢町の東山公園付近）から見た佐和山城跡

戦の舞台であり続けた佐和山城跡

佐和山城跡は、標高 233 mの佐和山（古沢町）に築かれた山城跡です。

彦根城は一度も戦火に遭いませんでしたが、佐和山城は常に戦の舞台であり続け、まさに日本を代表する戦の城跡と言うことができます。

世は戦国時代

佐和山城をとりまく武将たち

①境目に位置する城

戦国時代の後半（1500年代前半）

六角氏と京極氏・浅井氏の抗争

②浅井方の城

永禄4年（1561）、この頃までに浅井の支配下となる。

姉川の戦い

浅井長政側の磯野員昌（いそのかずまさ）が佐和山城に8か月間籠城（ろうじょう）し、戦う。

→織田信長の勝利

③織田方の城

安土城築城までは、上洛の際の信長の休憩所

元亀2年（1571）信長の重臣であった丹羽長秀が入れ置かれた。信長は、佐和山城を岐阜・京都間の中継点、西国への最前線と位置付けた。

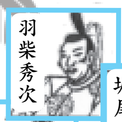
④豊臣方の城

本能寺の変

清洲会議

豊臣秀吉の重臣・堀秀政が、織田信長の孫で跡継ぎの三法師の守役（もりやく）と蔵入地（くらいりち）の代官として入城。

天正13年（1585）秀吉の甥・羽柴秀次が八幡山城（近江八幡市）に配置され、その宿老として堀尾吉晴が入城。

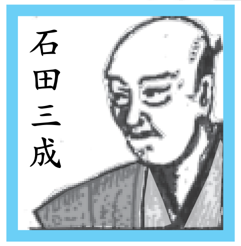


石田三成

天正19年（1591）蔵入地（豊臣家直轄地）の代官として石田三成が佐和山城を管理する。

秀次事件

文禄4年（1595）三成は、自害した秀次に代わり、近江で19万4千石を領する大名として佐和山城主になる。



関ヶ原合戦

慶長5年（1600）敗戦翌日に井伊直政らの軍勢に攻撃され、落城。

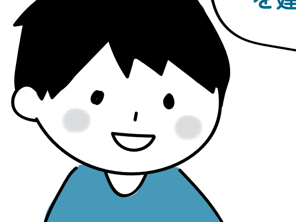
⑤徳川方の城

井伊直継による彦根城築城までの間、井伊家の居城となる。彦根城に移ったのち、佐和山城は廃城。

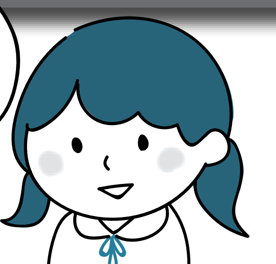
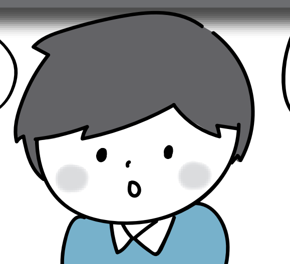
明治時代以降は清凉寺が管理することとなる。

当時対立していた勢力の境目に位置していたから、常に攻撃の対象になっていたんだね。

信長は、佐和山の麓で軍船を建造していたらしいよ。



三成は、豊臣秀吉から九州への所領替えを打診されたけど、他に佐和山城を任せられる人材がいないって断ったんだって～！



それだけ佐和山城は、豊臣家にとって大事なお城だったんだね～